みいけ主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033
・7140　炭鉱　474・528
※責任者　組織部長　渋田一恵

＝主婦が築いた十年の歴史＝

〝私たちのあゆみ〟

この伝統と歴史を發展へ

主婦会十周年記念式典、統一行事は、まことに三池主婦会の十年の歴史にふさわしく、盛大に成功裏のうちに行なわれました。あらゆる困難な条件を克服してここまでこぎつけた役員の努力とともに、内転などの問題をかかえながら練習し、三日間もの出演をつづけた会員、さらにこれを各地域で支え励ましてきた全会員、こうしたみんなの努力が、行事の成果を立派なものに築きあげたのです。苦しかった、しかも前進した十年の歩み、式典では古賀事務局長から「私たちの歩み」として報告されました。この十年の後をふり返り、こんごの前進を決意する意味で、さらにここでもう一回この「私たちの歩み」を掲載し、十年の意義をかみしめてみたいと思います。

忍従から斗いへ！

かって、多くの主婦は社会のしくみなど知らないで、忍従こそ美徳として、足元だけを見てくらしました。今もなお第二組合の主婦にその姿をみることができます。

炭婦協が結成されて十年、その長い間いろいろの斗いを通じ、労仂組合と主婦会の組織された力が、私たちの生活の要求と結びついて切り離されないことを、具体的に知ることができました。

また、政治とくらしの連がりも理解しはじめて、今日ここに主婦会結成十周年を迎えました。

苦しかった結成から「夢中で斗った英雄なき二・三日の斗いの勝利人間らしい日常生活の整備と学習活動、階級意識の高まり」から歴史的な三・三日の斗争に至るまで指導し、惜しみなく援助し斗う方向を示して下さった革新政党、全国の組織の皆さん、各団体の指導者や活動家の方たち、直接手をとり支えて下さった三池労組執行部や地域分会の皆さんたち、身近には家族の協力に守られていることを抜きにしては、私たちの歩みを語ることはできないと思います。

妨害の中で立上る

戦後、労組の斗いで主婦たちの斗いが目立つとき、炭鉱の主婦も全国的に夫たちを励まし、斗争に協力する動きが高まって、昭和二十七年三月の準備会を経て九月、日本炭鉱主婦協議会を結成しました。「斗争の勝利のカギは家庭を守る主婦にあるといっても過言でなく、こんご組合と一体となって斗い抜きます」と決意を示し、炭労の斗いの中から斗う第一歩をふみ出しました。

三池ではこのときまだ炭婦協結成に至りませんでした。積極的に組合運動を理解し協力する代表的な主婦たちが、組合執行部と地域分会に支えられて、会社の婦人会から炭婦協結成の方向にむかって、来るべき企斗に備えて力強い歩みを進みはじめていました。

これに対して会社の妨害、脅迫的ないやがらせ、宣伝、迫害など目にあまるものでした。

諦めからの脱却

三井資本の発展のかげには仂くものとその家族の生活への苦労は絶えまがなく、首切り、賃金切下げ、転場の災害などは、とくに大きな心配の種でした。

だが、主婦たちはこんな社会的な不幸の原因と斗っている組合運動に無関心で、不運とあきらめたり夫の無能と責任でもあるように思い、夫へのグチや不満となったり一部にはこんな苦しいとき新興宗教に救いを求める傾向などあってこれは会社に都合のよいものでした。

けれど、六十三日の長期ストの中で、主婦は組合運動と生活の結びつきを知り、目覚め始めて、主婦の理解と団結の力を組合に結集する必要がしだいに強く高まり、会社の圧力に屈せず二十八年七月二十一日、歴史的な炭婦協結成となり、三池の半数以上が加入し、明治いらい三井資本にしぼりとられるためにつながれた鉄の鎖を断ち切り、仂くものの主婦としてあるべき姿を確立しました。

団結は力……

結成後、息つく間もなく一・二・三日の斗いに参加しました。やけつく炎天の日から霜凍る朝まで、ほこりにまみれ、雨に濡れ、冷えこむ夜昼夢中でデモに加わり、座りこみにまた会社幹部の奥さんに指名解雇の不当と非情を訴え、台所を守って敵よりも一日長く斗い、一一八五名の首を守り抜きました。

こうして主婦の団結の力が示される一方、ストのための家計の赤字が苦痛であったり、ストの損害と妥結額だけが気になったり、こうした一部の主婦の気持ちが組合員に反映して、組合の弱さになることを考え、首を守ることができた成果に立ち、炭婦協全員加入を呼びかけ、地域的悪条件をもった外来主婦も組織化され、内部の充実を目指して歩みつづけました。

失業せず安心して子供が育てられる社会をつくる可能を斗いの経験を通して実感として教えられ、受身の姿勢から自発的な行動を起こすようになりました。一歩一歩の前進が主婦会成長の歴史であり、一人ひとりの行動が主婦会の伝統を築いてゆきました。

三池斗争を迎えた主婦会

やがて、安保の地ならしといわれる不当な攻撃の嵐が吹きまくり、私たちは仂くものの家族として斗いの焦点をしっかり見きわめました。二二〇〇名を見殺しにできない、守って斗うことが自分の生活を守る道に連がり、そしてこんだ合理化をはね返す突破口になるとして斗いの火は燃えひろがり、労仂運動史上かってないカンパと支援、仂くものと家族の連帯に包まれました。

三作の離脱から不幸な分裂と裏切りの悲しみ、暴力団が入り久保さんが殺され血が流され、子供の名を呼びながら逮捕される主婦。警察権力の力をもって屈服させようとするなら、私たちも一歩も引かぬ決意を誓い、憤りは主婦の胸にたぎりました。

三・一三日の長期にわたって金や権力で威し、挑発し、ためされました。確信をもてずに誘いの手によって脱落する主婦たちへ、復帰を呼びかけながら主婦の決意は深まり、子供の作文は「お父さんの首切りをはね返してから私の家ではお正月をします」と勝利を願い、守られることを信じています。

斗いはいまから

就労後、手段を選ばぬ差別と低賃金、組織ぶつ潰しの攻撃に苦しみ兵糧攻めにあえぎ家族ぐるみ内転に追われているとき、転場では生命の危機にさらされ、就労後三十三名の犠牲者が尊い生命を転場に奪われました。

戦後最大の被災率といい、三池の石炭は血まみれになって出てくるといわれ、これが非情な安保体制だといっています。

苦しい生活との斗いを、具体的に方法を考え合うことも主婦会の課題であると同時に、政府や三井独占や御用学者、マスコミ、第二組合などの脅迫めいた宣伝や、誘惑の手を断固としてしりぞけることのできる確信と決意は、やがて必ず仂くものとその家族が幸せになるための武器であると思います。

今こそ主婦会十年の歩みで培いたくわえた階級意識と団結を、主婦会だけでなく平和を願うすべての人と手を結び、統一して民主主義が崩されることと斗い、そのことが今の私たちの合理化への斗いと生活を守る道につながっていると思います。

トラック2台分　高千穂労組へ燃料カンパ

あくどい組織破かいと、再度首切りを狙う会社の攻撃に対して、長期間斗いつづけている福岡県古賀町の高千穂労組（紙パ労連）へ、主婦会としてはこれから寒さに向うときいくらかでも助けになるならと燃料カンパをきめ、会員に呼びかけていました。

各地域とも積極的にこのカンパに協力され、その集約が十月十八日に行なわれた結果、実にトラック二台分が集められました。主婦会は二十日にトラック二台に満載し蓮尾本部役員と久保三川支部長が同乗して高千穂に向いました。

現地では、思いもかけぬ三池からのカンパに感激し大喜びでさらに斗い抜くことを誓われました。

主婦会日誌

10月8日　本部役員会、総評主婦の会歴史編さんのため岡氏と座談会、大牟田公判傍聴．
9日　本部役員会、大牟田市総合婦人会会合、福岡一部公判傍聴（11日まで）
10日　十周年記念実行委員会（12日まで）
13日　十周年記念式典及び統一行事ひらく（15日まで）
15日　敬老会
16日　福炭婦協第3回評議員会
17日　本部会議
18日　高千穂労組への燃料カンパの本部集約
19日　支部長会議
20日　高千穂労組へ燃料カンパ輸送（トラック2台）
21日　大牟田市総合婦人会婦人ペーゼント（中友小学校で）
22日　福岡公判民事傍聴（23日まで）
23日　福炭婦協幹部講習会（24日まで）
27日　九州地区母と女教師の会（福岡で28日まで）

詩　団結人形

水俣　松岡ふゆ子

組合の骨抜きを狙う安定賃金に反対して斗う水俣労組は、いま不屈に斗っていますが、主婦の会の松岡ふゆ子さんは斗う決意をこめた数編の詩を編集部に送ってこられました。

その中の二つを掲載します。

× × ×

一、仲よし人形　糸人形
あなたもわたしもつけました
決して変らぬ　お約束
きっと勝利の　その日まで
誓ってつけた　マスコット

二、団結人形　糸人形
真夏のデモや　一夜のピケ
どんなに木枯し　吹こうとも
負けはしないぞ　がんばるぞ
誓ってつけた　マスコット

三、幸せ人形　糸人形
はるばる来られたオルグさん
日本中が　手をつなぎ
未来の幸せ　きづこうと
誓ってつけた　マスコット

正門前

突込め！
ピケ破り
押し返せ　彼等の青白い行列を
亡者共に　何が出来るか
ヤツケよヘルメットよ
一歩もゆずるな
数分の話合ひ
魂を売ったなきがらが　そろそろ
身分証明　説得
ヒクヒクと　口がゆがむ
面を　上げろ
黒い　眼鏡をとれ
昨日　団結の稲刈りをさせ
今日は　御用に走った男
水害の日　石垣をなおし
路を作ってもらったのを
忘れたか！
柿の実を盗んだと　けんぎをかけ
ポリまで連れて来た　人でなし！
暮れんとする広場に
おんなの叫び
女達よ　スクラムを組め
ヘルメットに続け
やがて来る　新しい時代を
汝の子に　ゆづる為に
三七・一〇・一八

わが家の自慢料理

本部役員　蓮尾あや子

ナリ身のしのだ

台所を守ってガッチリ斗う私たちは、安価で手早く、しかも、しみじみとした味と、栄養、色どりを食事に盛りたいと思います。

【材料（五人分）】
一、いわしのすり身三〇〇グラム
一、すしあげ（四角いもの）五枚
一、人じん一本
一、玉ねぎ中二分の一個
一、三度豆五本
一、しょうがひとかけら
一、調味料として正油カップ三分の一杯、砂糖大さじ二杯

【つくり方】
(1)すしあげの一辺を切って袋をつくります。
(2)すり身に塩小さじ二分の一杯を入れて、しょうがのおろしたものと、人じん、玉ねぎ、豆をそれぞれみじん切りにしたものをよく混ぜ合せます。
(3)混ぜ合せたものを、袋にしておいた五個のあげに等分に詰め、よく落つかせます。
(4)なるべく平たい鍋にそれを並べて、ひたひたの水と調味料を入れ、中火でゆっくりと煮ふくめます。このとき、なるべく薄味で煮るのがおいしいコツです。
(5)煮上ったものは斜めに二つに切り、カツコ」よく皿に並べます。好みでネリ辛子をそえれば、なかなかオツなお味です。
(6)冷えてからも味は少しも変りません。イワシの臭みもありません。お弁当のお菜にもとても喜こばれます。

お知らせ

紙面の都合により、三面に連載の月足政治局員の視察記は、今号は休載しました。